

PDCAサイクルの構築体制について

記載の有無 **あり**

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名: **東京医科大学八王子医療センター**

平成29年9月1日現在

■ 自施設の診療機能や診療実績、地域連携に関する実績や活動状況の他、患者QOLについて把握・評価し、課題認識を院内の関係者で共有した上で、組織的な改善策を講じる体制について、地域に対して行っている情報提供を記載してください。

- ① 院内の見やすい場所に掲示している
- ② 院内誌、チラシ等で広報している
- ③ ホームページに掲載している
- ④ ホームページに掲載している場合、該当するページのアドレスを記載してください

いいえ (はい/いいえ)
いいえ (はい/いいえ)
はい (はい/いいえ)

<http://hachioji.tokyo-med.ac.jp/news/cancer.html>

- ⑤ 地域の広報誌等で広報している
- ⑥ その他の方法で掲載している
- ⑦ その他の方法がある場合、内容を記載してください

いいえ (はい/いいえ)
いいえ (はい/いいえ)

■ 自施設の診療機能や診療実績、地域連携に関する実績や活動状況の他、患者QOLについて把握・評価し、課題認識を院内の関係者で共有した上で、組織的な改善策を講じる体制について、必要に応じて図表などを活用し、具体的に記載すること。

PDCAを使って改善することを想定している課題(いくつでも可)

	課題の内容	目標	目標達成の検証方法(データ源)
例)	患者満足度の向上	退院患者の80%が入院治療環境に満足する	3か月おきに日を設定して患者アンケートを行う。
1	緩和ケアチームへの依頼件数の増加	入院がん患者の25%が、緩和ケアチームに依頼される様にする	緩和ケアチームへの依頼件数
2	B型肝炎再活性化への対策	B型肝炎再活性化のリスク症例すべてのモニタリング及び早期治療介入	化学療法中、HBs抗体またはHBc抗体陽性患者のHBV DNA測定状況の把握
3	がん患者苦痛スクリーニング導入	緩和ケアが必要な外来がん患者への早期介入を図る	質問票の配布状況、回収率の把握
4	分子標的薬の安全管理	分子標的薬の有害事象を早期に発見し、適正な介入を行う	多種診療科による、分子標的薬の有害事象管理に関する勉強会を定期的に開催し、情報提供を行う
5	緩和ケア地域交流会立ち上げ	緩和ケアに関し、地域その他施設が参加する多職種連携カンファレンスの開催	開催毎にアンケート調査を行う

上記の目標に向けた活動計画の予定(未定の場合には、未定と記入)

1	緩和ケアチーム専従看護師が連日病棟ラウンドを行い、病棟との情報共有を図り、早期のチーム依頼を促進する。
2	全化学療法患者のB型肝炎のスクリーニングを行い、HBV DNA測定状況の確認を行い、主治医に報告を入れる。
3	総合相談・支援センター、がん相談支援センター、緩和ケア専従看護師が中心となり、回収を行い早期介入につなげる
4	多種診療科による、分子標的薬の有害事象管理に関する勉強会を定期的に開催し、情報提供を行う
5	外部の医療機関に緩和ケア地域交流会の広報を行い、多くの職種の方の参加を促す

このシートに貼付することが難しい場合、**ファイル名の頭に別紙46を付けた**電子ファイル、別添資料を提出すること。

別添資料の提出有無 **なし** (あり/なし)
 ファイル形式 **(ワード/一太郎/リッチテキスト/エクセル/パワーポイント/PDF/その他)**
 その他の場合ファイル形式を記載してください。